

あなたは信じますか

## 地震火災の原因は

庶民科学講座

火山や地震は地下の爆発現象が現れたものである事を江戸時代の識者は知っていた。地下水や海水が地殻の隙間を流れ落ちてマグマ溜りで高温高圧の加熱蒸気となり、2000℃を超えると水素と酸素に解離し始め巨大地下空間で爆縮（爆発）が起こり地下空間は瞬時に3分の2に縮まる。これが地震だ。直前、地上に熱気や電磁波が漏れ出て怪現象が現る

2022(4)1/19 No.003

※国立国会図書館カウンターに「真理は我らを自由にする」と書かれています。誤謬から出たものは全て悪とつながります。何事も本当の事を知りましょう。10月～1月と動物実験の準備などで時間が無くて庶民科学講座はお休みしていました。これからはもっと時間が無くなる様になってしまいました。時間は作るものといわれていますので作る様にしました。笑。

前回、地震のメカニズムのお話の時に伝えした方が良かったのですが、大地震時の火災発生の本当の原因は地下から噴出する高温の可燃性ガスや300度を超える加熱水蒸気が原因なんです。では行きます夜。笑。

地震火災は二次災害ではなくて地震現象そのものなんです。次の写真を見て下さい。新聞の切り抜きと一緒に写してある写真を。これはフロリダを襲った竜巻の後の写真です。家屋が倒壊しても火災は発生していませんでしょう。竜巻が家屋をぶち壊したら、電線が垂れさがったり、ガスパイプやなんかが壊れて、あちこちから火災が発生する筈です。地震の場合ガスの元

栓を閉めたって、地割れがして水道管もガス管も元栓以前の問題でダダ洩れの筈ですからね。



図3-12 フロリダでの大型竜巻災害 家屋が倒壊しても火災は起きていない。地震火災は地震現象につきもので、二次災害ではない

地震で壊れた家から火災が発生すると言われていました。でもね、ガスって火花が散るとか高温になるとかしない限り燃えないんですよ。この写真ではよく見えないかも知れませんが木造家屋が沢山あります。電柱も倒れています。なのに燃えていません。

ところが！下の写真は阪神淡路の地震で神戸の火災が写っています。消防士の話では、**消火しても消火しても再出火して疲労困憊した**という話があります。



図3-11 阪神淡路大震災で地震直後から火災が発生し、燃え上がる神戸市内

この写真を見て一つ疑問に思う事が有ります。神戸の街全体が破壊されたのに、なぜこの辺りだけ集中して燃えているのでしょうか。条件は同じ筈です。二次災害というのであればもっと

と広範囲に火の手が一様に上がっているのではないかと思います。すが。

またパプアニューギニアの**地震津波**を調査した人の話では、津波に巻き込まれて負傷した人の多くが火傷（やけど）を負っていたそうです。この原因は次の写真でお解り頂けます。前回地震のカラクリをお話ししました。地球は月の様に冷え固まっではないので、世界中に火山が有ります。熔融したマントルからマグマ溜りを経て2000℃を超えるマグマを火山の火口から噴き出させています。火山爆発は地下水が地表近くのマグマ溜りに落ちて行って、地表近くでの水蒸気爆発によるものです。これと同じ事が、もう少し深い所で起きたのが地震です。直下型大地震では、道路や地面がひび割れているのを写真などで見た事が有ると思います。地表だけではなく、地面の下奥深い所でも同じ様にひび割れています。

### ⑤ 地震火災の原因

直下型地震の地割れから噴出する可燃性のガス(水素・酸素)や300℃を超える過熱水蒸気などが火災の原因となる。



住宅の床下には過熱水蒸気が噴出ししないような工夫、金属板の敷設、コンクリート打設、などの対策が有効です。

そのひびを伝って水素や酸素、メタン、硫化水素（数年前に横浜、川崎を中心に広範囲でガス

の匂いがすると騒がれました。メタンはガスの匂いに似ていますが、ガス漏れは見つかりませんが、これが噴出した可能性が有ります)等の可燃性ガスが地表にまで噴出するのです。しかも高温で。地上には沢山の空気が有るため簡単に燃えます。また 300℃を超える加熱水蒸気も噴き出して来ます。木材の発火温度は木の種類にもよりますが300℃前後です。また火山帯でも無く火の気のない森林火災を航空機から観測したデータによると、地下3mで306℃を観測しています。火山性のものであれば200℃程度の筈です。これが直下型大地震火災や森林火災の真の原因です。

地震の後の火災は、ガスの元栓の締め忘れと当たり前の様に思われているけど、地震爆発論だと、いまの対処法は、逆に危険かも…

直下地震の場合はできるだけ早く自宅を出る詳しくは、本書を読んでください。

300℃ってスゴイ高温だよ

高温のガスが噴出しつづければ確かに火災につながるね。



そもそも巨大地震が発生したらまず発電所が止まります。電気が止まるとガス、水道、ガソリンスタンド等、循環させるモーターが止まるので、都市ガスは出て来ません。プロパンガスの場合は、もし火を使っている時であれば、その後もガスが出続けるので火災を発生させる事は有りますが、最近のコンロは安全装置が付いているので、空焚

き状態になるとガスが止まり、火は消えます。

こういう訳ですから、下手にガスの元栓を占めるために家に留まるとかえって危険です。家がつぶれる程の地震の時は、何もせず、いち早く家屋や可燃物の有る所から遠ざかる事です。以前にも何かのレポートに書いたことが有ると思いますが、大変参考になると思いますので、もう一度書いておきます。これは阪神淡路地震の時の実話です。

作家の藤本義一さんの体験談です。藤本義一さんといえば、もう60年も前ですが、TVの深夜番組で「イレブンPM」という人気番組が有りました。その司会等もされていました。当時西宮に住んでおられたそうです。激しい揺れが収まってから外に出ると、みんな西の方へ大移動していたので、義一さんもみんなの流れに付いて行っていました。不思議に思って移動しながら訊ねました。「何か指示が有ったのですか」「分かりません。みんな向こうへ行ってるもので、私も付いて行ってるだけでなんですけど・・・」と。何故だろうと思いつつ、速足で西に向かっていったその時です。群衆の流れに逆らって東へと駆けている鎖を引きずった一匹の犬とすれ違ったのです。「あっ！」一瞬閃きました。「・・・ペットであっても動物の本能は正しいのでは・・・」と。さすが義一さんです。すかさず鎖を引きずって東へと駆ける犬を追いかけました。義一さんはその犬を見失うまいと必死で追いかけました。大勢の群衆の流

れに逆らって移動するのは大変でした。

やっと着いた所が大きな河川敷でした。犬、猫、カラス、トンビ等が安全な河川敷に集まって来てたのです。普通なら目の前に猫がいたら犬は追いかけたり、トンビとカラスは大喧嘩しますが、そこではお互い知らんぷりだったそうです。動物達はちゃんとわきまえて生きているんですね。人間とは大違いです。笑。それで義一さんは神戸の地震大火の難を免れることが出来たのです。もし群衆と一緒に西へ西へと急いでいたら、義一さんも大変な事になっていたかもしれません。

江戸時代にも大地震の記録が有ります。安政2年1855年に



図3-13 安政2年の地震で発生した江戸の大火。電気や石油がない時代でも直下型の大地震には火災がつきものであった

起きた江戸の大地震です。この1850年代には幾つかの巨大群発地震が発生した様です。電気や石油、ガスが無い時代に大火災が発生しました。爆発の方向が垂直に近い直下型だと地割れ、ひび割れから可燃性ガスや高温の過熱蒸気が上がって来て大火になるのです。

今後の耐震建築設計基準には床面に高温ガス噴出を防ぐ為に金属板等を敷設する等の処置を講ずる必要が有ります。先端に行く学者は自然現象を素直に受け止める目を持って欲しいです寝。